本資料のうち、枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

資料1

分析を目的とした燃料デブリ等の構外輸送の検討状況について

2020年7月29日

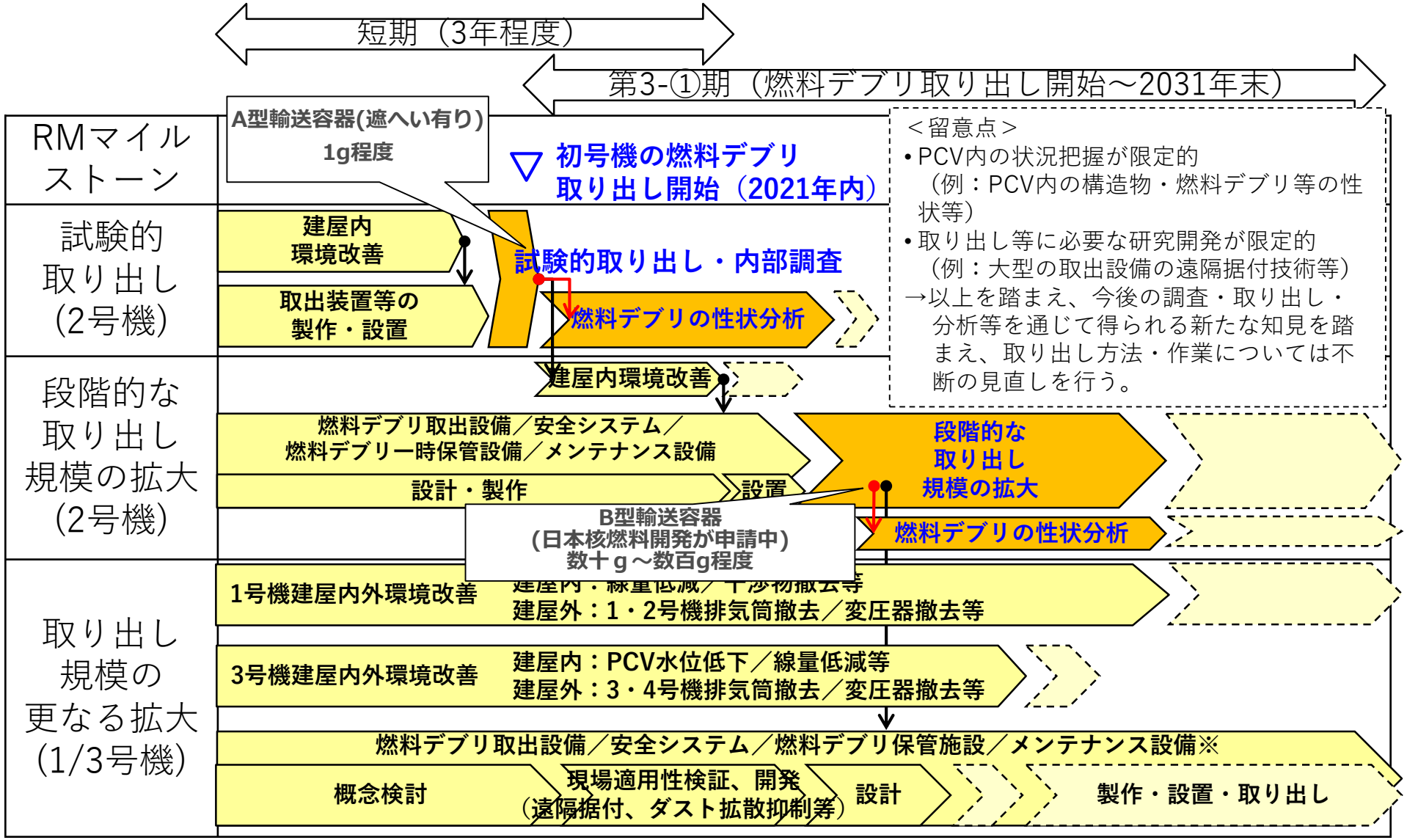
TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

１．背景

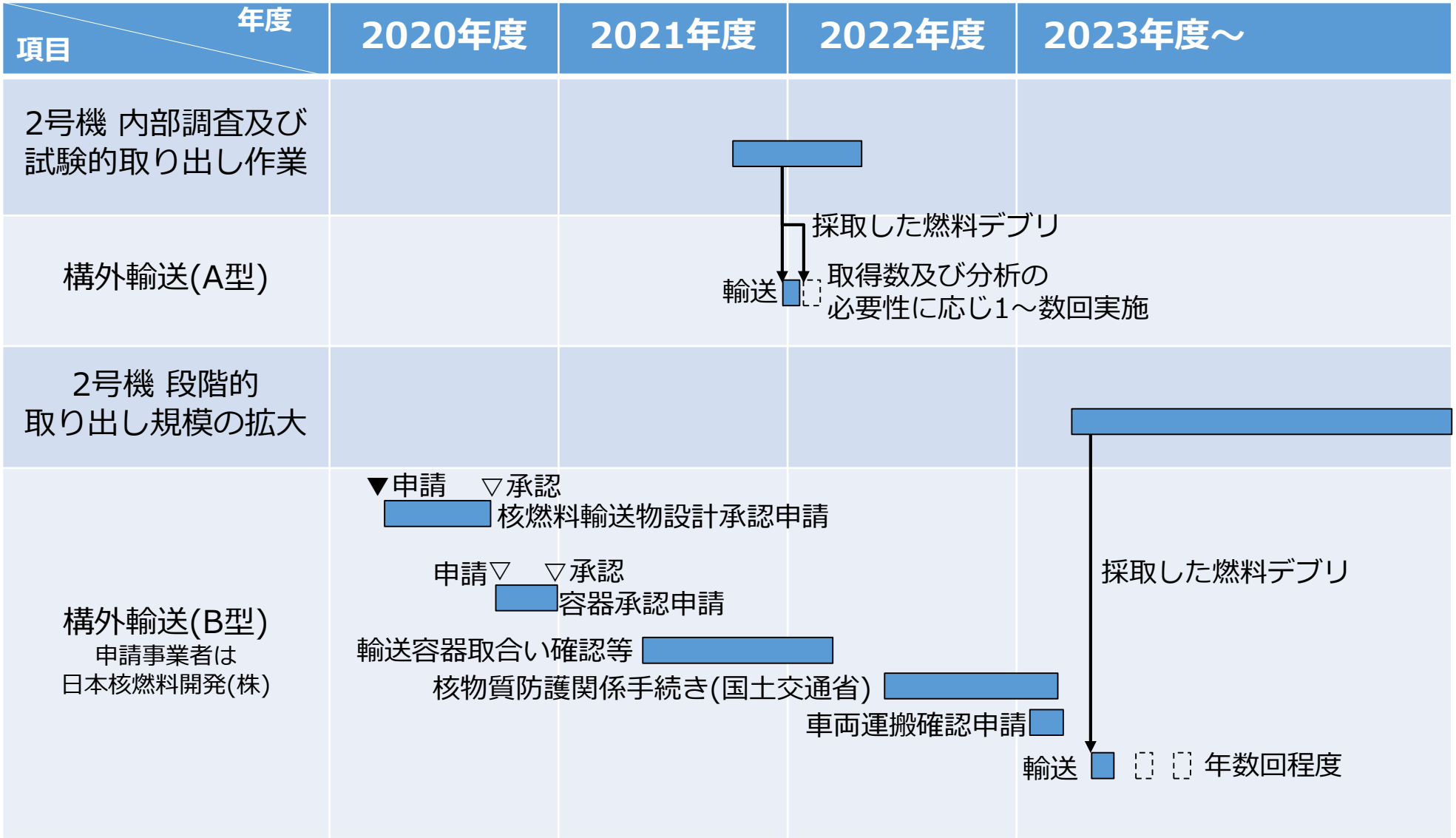
- 2号機の試験的取り出し作業以降、燃料デブリの取得を予定している。
- 取得した燃料デブリについては、適宜分析を進め、性状を把握することにより、燃料デブリ取り出しの各工程（取り出し、収納、移送、保管等）の検討に活用したい。
- また、茨城県内の既存施設での分析を通じて得られる経験については、放射性物質分析・研究施設第2棟における分析にも活用を予定。
- 本資料は、取得した燃料デブリの既存施設への構外輸送について、概要をお示しするもの。

2．燃料デブリ取り出し工程と構外輸送 (廃炉中長期実行プラン2020)



※3号機を先行して検討を進め、1号機に展開することを想定

3．燃料デブリの構外輸送の概略スケジュール



※今後の工程（許認可手続き含む）は、現在検討中の案であり、現場作業の進捗等に伴い変更の可能性があります。

４．燃料デブリの構外輸送に用いる輸送容器

- 法令に従い収納物の放射能量に応じた輸送容器を用いる。
- 試験的取り出し(2021年内に開始)で得られる燃料デブリは、1g程度であり、十分な遮へいを有するA型輸送容器で輸送することを予定。
- 段階的取り出し規模の拡大(2023年度以降)では、数十gを超える燃料デブリが取得できる可能性があることから、最大で[redacted]輸送可能なB型輸送容器を使用することを予定。
  日本核燃料開発株式会社より核燃料輸送物設計承認の申請中。
- 燃料デブリ入手のタイミングに依存するが、いずれの段階でも年数回程度と考えている。
- 輸送先は、燃料デブリを取り扱うための使用許可を取得した施設の中から、分析目的に適した施設を選定する。

A型輸送容器
（遮へい無し）の例

A型輸送容器
（遮へい有り）の例

B型輸送容器
（現在申請中のもの）

小 ← 放射能量、線量 → 大